

都市大塩尻逆転バレー

バレー女子がスタート。東京体育館ほかで予選グループ戦、敗者復活戦が行われた。今年1月の春高バレー3位の東京都市大塩尻(長野)は予選グループ戦で西呂楽(群馬)と対戦。第1セットを落としたが2、3セットを連取して勝ち上がった。岡田隆安監督は「自信のないプレーの連続で最悪だった。リードするとミスで連続失点してしまう、いつものパターンが出てしまった。それにしてもまず勝つことが出来て良かった」とほっと胸をなで下ろしていた。

チームをけん引したのは高相みな実主将(3年)。164センチと小柄だが、最高到達点は294センチ。相手ブロックの上から打ち下ろすスパイクは強烈で、1人で19点。「全国大会初出場

日本一を目指す東京都市大塩尻の高相みな実主将(左)と小林禎



の子が多いので、自分がやらなければという意識が強すぎて空回りした部分もありました。次からは冷静にチームを盛り上げていきます」と話した。8日は18回目の誕生日で、応援席から「ハッピーバースデー」と祝福され、両手を上げて応えていた。

小林10得点 ○…東京都市大塩尻で主将を支えていたのが小林禎(さち=3年)。

高相が後方に回ったときは、攻撃の柱となって10点を挙げた。「出だしはバタバタしてしまっただが、以後は立て直すことが出来た」と笑顔を見せた。自分の出来については「スパイク、サーブともミスが多く反省しています」。インターハイは3年連続3回目の出場で昨年のベスト16が最高。「今年は日本一を目指します」と力強かった。

■この記事・写真等は日刊スポーツ新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会